日本史探究	第7回　南北朝の対立と室町幕府	

考えてみよう　：　なぜ二人の天皇が同時に存在(exist)したのでしょうか

空欄を埋めましょう！(Fill in the blanks！)

§1　室町幕府の成立

(1)(1　建武の新政　)(by後醍醐天皇)…天皇を中心とする政治の復活を目指す

→　公家重視の恩賞　→　武士の不満が高まる　→　失敗！！

※足利尊氏…後醍醐天皇と対立　→　武家政治を再興

▲後醍醐天皇

(2)室町幕府の成立

①足利尊氏…京都を制圧し(1336)、(2　持明院統　)の光明天皇を擁立

→(3　大覚寺統　)の後醍醐天皇と対立

②足利尊氏、征夷大将軍に任命(1338)

京都室町に幕府をひらき、武家政治を再興

※足利尊氏によって開かれた幕府を(4　室町幕府　)とよぶ

▲足利尊氏

§2　南北朝の動乱

(1)南北朝の対立

①後醍醐天皇…大和(奈良県)南部の吉野にのがれ、皇位の正統性を主張

→　京都と吉野に二つの朝廷が並立

②京都の朝廷を(5　北朝　)、吉野の朝廷を(6　南朝　)とよぶ

→　二つの朝廷の対立は約60年間続く　＝　(7　南北朝時代　)

(2)守護大名の形成

室町幕府…守護を国ごとに置く

→　各地の武士を組織する目的で守護の権限を強化

⇒　守護…領国内の武士を家臣にするなど勢力を拡大　⇒　(8　守護大名　)とよぶ

§3 室町幕府の支配体制

(1)室町幕府の政治体制

①**管領**…将軍を補佐して守護大名との関係を調整

→細川・斯波・畠山の三氏から選ばれる＝(9 **三管領**)

②**侍所**の長官(所司)…有力な守護大名

→山名・赤松・一色・京極の四氏から選ばれる＝(10 **四職**)

(2)三代将軍 **足利義満**

・南北朝の統一(1392)

・各地の有力な守護大名の力をおさえる

⇒ 幕府の全国支配が完成

▲足利義満

書いてみよう ： 南北朝の対立とその影響についてまとめてみよう

(例)建武の新政に失敗した後醍醐天皇が吉野に逃れて南朝の正当性を主張した。そのため、
足利尊氏によって擁立された京都の朝廷(北朝)と対立し、南北朝の対立は約 60 年間続いた。
その間に成立した室町幕府は、南北朝の対立を背景に守護の権限が強化されて守護大名と
呼ばれるようになり、有力な守護大名が幕府の要職に就くことによって影響力を強めた。
その後、南北朝二つの朝廷は、室町幕府 3 代将軍足利義満によって統一された。

(キーワード：建武の新政　後醍醐天皇　守護大名　足利義満)